



高野山開創
1200年



根本大塔／真言密教の根本道場におけるシンボルとして建立された。塔内には金色に輝く大日如来像を中心に曼荼羅の世界が広がっている。

添田隆昭(そえだりゅうしょう)

高野山真言宗宗務総長
1947年和歌山県高野山生まれ。京都大学文学部哲学科、高野山大学大学院博士課程修了。2007年権大僧正に補任。1978年から高野山大学非常勤講師(ドイツ語)、2001年高野山高等学校校長就任。2013年から現職。



千二百年続く
空海への信仰と
高野山

今年開創1200年を迎える、真言密教の聖地・高野山。

4月2日から5月21日までの50日間にわたり

空海が残した遺産への感謝を込めて大法会が執り行われる。

弘法大師とは？その教えの真骨頂とは？

知事対談
添田隆昭×仁坂吉伸

高野山真言宗宗務総長

和歌山県知事

仁坂知事(以下仁坂) ●この度は、高野山開創1200年おめでとうございます。今年高野山にとって非常に特別な年ですね。**添田隆昭氏(以下添田)** ●高野山は弘法大師が開創して以来、1200年という大きな節目の年を迎えました。この間大きな火事や廃仏毀釈など、廃絶の危機に何度も直面いたしました。それらを乗り越えようやく今日まで辿り着いたというのが実感です。しかしこれはあくまでも通過点であり、前人たちが守ってくれた高野山、同時に1200年に渡り弘法大師を信仰してきた人たちの祈りや思いを受け取り、次の世代に受け伝えていかなければならない、という責務もしっかりと受け止めています。高野山では通常50年に一度、大法会を行うのですが、それは50年前と比べて次の50年でどれだけ弘法大師の事をお伝えすることができたのか、50年毎に繰り返される試験みたいなものと思っています(笑)。

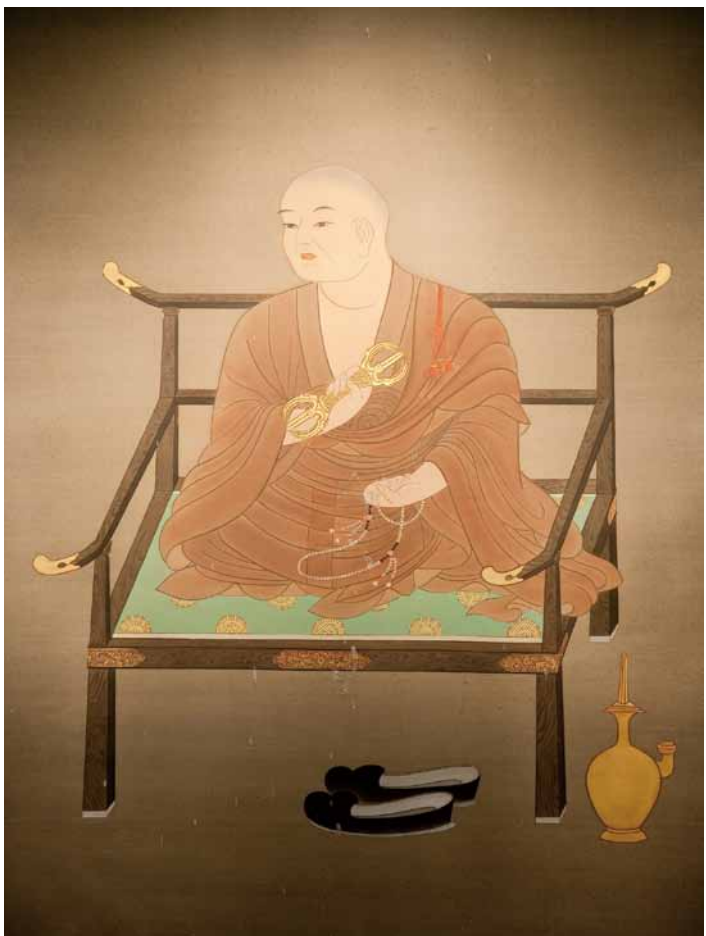
仁坂 ●私はこの1200年という大きな節目の時に生きているということを本当に幸せだと感じています。ところで弘法大師が目指した世界ってどんなものだったのでしょうか？

添田 ●それは簡単には説明できませんが、弘法大師の教えの中心は「全ての物に命がある」ということです。人間や動物にはもちろん、植物にも命は宿っていますが、弘法大師の教えの真骨頂は、「無機質な物にも仏さまが宿っている」ということなのです。いくなれば世の中には無駄なものはないということですね。弘法大師が宗教的な悟りの境地の中でたどりついたのであろうと思います。なかなか理解できないですね。

高野山を開いた
弘法大師空海とは？

仁坂 ●弘法大師には4つの特徴があったと思います。一つ目は真実の人。弘法大師は悟りを開くために、厳しい山野を駆け巡り大変な思いをして修行をされました。その姿を想像するだけで、真実を知るのほそんなに生優しいものじゃないという気迫を感じます。二つ目は万能の人。多言語を話せたようだし、音楽や書道、土木技術にも優れた才能を発揮しています。三つ目は人々を愛した人。全国各地で多くの人々を救い、それが多くの伝説として伝えられています。四つ目は稀有の人。弘法大師は20年の予定で遣唐使の留学僧として唐に渡り、密教の第七祖、恵果和尚に師事し、わずか数ヶ月で、その教団のトップとして認められたのです。今でも昔でも外国へ留学、勉強して帰国し、その知識を日本で広めるというタイプの偉い人はたくさんいますが、このような例は本当に稀有です。どうしてこんなことができたのでしょうか？

添田 ●弘法大師は若い頃から非常に秀才でした。その頃は大学に行く事を目指し、多



弘法大師御影 右手に持っているのは五鈷杵と呼ばれる密教法具。

くの教典を暗記しようとしていました。しかし難解な上、膨大な教典の全てを覚えることができないと悩んでいた時、虚空蔵菩薩の真言を百万遍唱えれば、記憶力の増強をはかれるという教典を見つけます。最初はそういう目的で真言を唱えていたのですがある時、それら全てを超越するような仏様との出会いを体験します。まさしく真言の真理に辿りついた瞬間でした。しかしその真实性を説明できる人が日本国内にいない。ということで、新しいものを学ぶというより、自分が体験した事を認めてくれる人が存在するのかわたしはそれが真理なのかどうか？それらを確認するために唐に渡ったといわれています。



20万基を超える墓石や慰霊碑の数々が立ち並ぶ奥之院参道。

仁坂●なるほど。だから恵果和尚も弘法大師を一目見て、これこそ我が後継者だと認識した訳ですね。
添田●そうですね。自分の弟子の中にもいなかったのに、今、目の前にいる全く無名の、それも異国の僅か30歳の若者が、自分と同様の体験をしたのだと二目の元に見抜いたんですね。

他にはない魅力に満ちた 真言密教の聖地・高野山

仁坂●総長が感じる高野山の魅力とはどのようなものでしょうか？

添田●最近海外からの参拝者も多くなりましたが、外国の人々が仰るのには京都や奈良といった寺院が多い所でもあまり僧侶には出会わないそうです。しかし高野山では本屋さんや八百屋さんなどいたる所で僧侶に会えると言います。もうひとつはお経をよく聞くということ。高野山で宿坊に泊まると朝の勤行があり、外国人でも一緒に手を合わせお経を唱えます。こういうことを体験できる場所は、非常に稀で感動的だといわれます。高野山に暮らしているので、当たり前なことだと思っていました。

仁坂●自分自身の事は自分ではなかなか分からないものですからね。私が感じる高野山の素晴らしさは、高野山の人々が「高野山」としてのあり方を心得ていて、昔の姿のままの「聖地」を守り続けてきたこと

らだと思えます。また奥之院には宗派や教義も異なる沢山のお墓があります。敵味方となり戦った者たちの墓も同じように並んでいる。これこそ究極の寛容の精神だと思えます。高野山はミシュランのグリーンガイドで三ツ星、さらにナショナル・ジオグラフィックのトラベル誌で「2015年に行くべき世界の20選」にも選ばれ、今後はますます外国からのお客様も増加すると考えられます。

添田●ミシュランガイドの最初の評価は二ツ星でした。どうしてなのかと聞きますと、「高野山は素晴らしいが、案内表記に外国語の表記がない」ことが理由でした。外国語の表記があるということは、外国人を迎える準備ができていることの現れだと。それからは外国語での案内等を行うようになり、三ツ星にいたりしました。また、南海電鉄主催の「高野山カフェ」という写真や瞑想の体験イベントを東京で開催しているのですが、そこで「女性一人でも泊まれますか？」と尋ねられました。その時「ああ、女性の方は、そういうことを気にするんだな」と知りました。女性客へのおもてなしとしては、トイレが綺麗なことが必須なんですよね。高野山でも一番最初に美化と設備の充実を行いました。

仁坂●私も同感です。和歌山県では「おもてなしトイレ大作戦」として、温水洗浄機付きの洋式トイレを標準装備とするなどの整備を行っています。高野山はお手

本のような場所です。トイレを綺麗におもてなしをしていると、お迎えしている方も心が洗われる思いになりますよね。
添田●昔から手でトイレを掃除するという運動がありました。あれは掃除をする側の気持ちも清々しくしますね。
仁坂●そしてもう一つお手本といえるのが景観の保全です。高野山は信仰の町なので、観光面だけを語る訳にはいきませんが、知事としては多くの人に来て頂きたい。しかし観光資源を毀損しては本末転倒。そういう意味で一番大切なのは「景観の保全」だと考え、景観条例を整備しましたが、高野山は既に規制していて、電線は地中化され、町中の色彩も統一感がある。さすが高野山だと思います。

期待を隠しきれない 絢爛壮麗な大法会

仁坂●開創1200年にあたり、どのような行事が行われるのでしょうか？
添田●4月2日から5月21日まで50日間に渡り様々な法会が毎日行われます。その法会の形は1200年前に弘法大師が持ち帰ったそのまま、我々が大切に守り続けてきたものです。漢文で書かれている様々な教典も、唐で読まれていた発音そのままです。とはいえ言葉は時代の流れと共に変わります。それは中国語においても例外ではないようで、現在の中国人も

知事対談

添田隆昭 × 仁坂吉伸

高野山真言宗宗務総長 和歌山県知事



壇上加藍に位置する金堂。全山の本堂にあたる。

全く聞き取れない発音もあります。
仁坂●口伝で1200年に渡り継承してこられてきた訳ですね。
添田●何しろ耳から耳ですから、少しは日本語なまりになっているでしょうけど(笑)。声明とは非常にメロディアスな節を付けてあげるお経ですが、これも弘法大師が唐から持ち帰ったもので、特別な時しか行われません。しかし期間中は朝昼晩と一日三回、そういう様々な法会を行う予定です。
仁坂●それは一般的な方も見学できますか？
添田●もちろん。
仁坂●それは感動しますね。
添田●他にも、昭和9年に当時の大仏師高村光雲の手により新刻されて以来、初となる高野山全山の本堂である「金堂」ご本尊の御開帳など、数々の特別公開や催事を予定しています。弘法大師は他の開祖様と違い、唯一今も生きて座禅を組み、高野山から私



たちを見守ってくださいっていると、我々は信じています。弘法大師の御廟がある奥之院にも是非お参りになり、弘法大師の温かい眼差しを感じて頂ければと思います。
仁坂●これを機に、より多くの方々に高野山にお越しいただけるよう、情報発信などに取り組んでいきます。本日はお忙しい中、ありがとうございました。